

1 はじめに

昨年度、創立50周年を迎え地域、保護者に学校が目指していることや目標としていることがよく理解してもらえた年であった。特に地域との結びつきは強く協力、支援してくれる方が多く学校は地域で成り立っている。四谷中学校の現状は、不登校生徒が多く、規範意識や社会性の未成熟、学習意欲の低下など、様々な課題がある。また、通常の学級にも一定の割合で特別な教育的支援を必要とする生徒が在籍している。多様化、複雑化している子供が抱える困難に対応し、子供たちの命や安全を守るためにも、教職員の力だけでなく、家庭や地域の教育力を生かしたり関係機関との連携を図ったりしていくことが必要である。

学校現場は新たな時代に入ったと言っても 過言ではない。学習指導要領に基づいた子どもたちの資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限に活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ること、学校の教育課程に基づいた組織的かつ計画的な教育活動の推進と教育課程の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを一層進めることが、現在の学校教育の果たすべき役割である。こうした中で、私たち四谷中学校の教職員が忘れてはならないことは、義務教育最後の3年間で生徒を育てる学校であること、そして、未来社会の創り手となる生徒の学びと育ちを支える学校であること。そのために、学校は生徒に未知の状況にも対応できる「生きる力」を育てることが大切であると考え。生徒に求められる「生きる力」の礎は、知識・技能の習得、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養、未知で予測困難な状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成をする。そして、生徒の「生きる力」を育てるために、『確かな学力・健やかな体・豊かな心』を要として教育活動に取り組むとともに、一人ひとりの多様性と向き合い、一つのチームとして学びを高めていくことで、生徒一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を見出し支援して、卒業後の未来社会につないでいく役割を担っていると考える。

そこで、令和8年度は、「確かな学力の育成」、「キャリア教育の推進」、「豊かな人間性の育成」、「協働するチーム四谷中」を重点目標に、特色ある教育活動の推進と「個別最適な学び」に取り組み。歴史と伝統がある四谷中の教職員として、不測の事態には英知を結集し、優れたチーム力を発揮して、家庭や地域社会との連携と協力・信頼を得ながら、令和8年度の教育課程の編成に基づいた教育活動を進め、教育目標の具現化を図る。

2 学校経営の基本構想

(1) ミッション

『国際社会に貢献する人材を育成する』

(2) 教育目標

人権尊重の基本に立ち、生徒一人ひとりの生命と人格を尊重した教育を推進する。未来への夢や目標に向かい強い意志で自らを律し、その実現に努めるとともに、正義感や公正を重んじ、たくましく生きぬく力を身に付けた心身ともに健康な生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

◇進んで学習し、ねばりつよく努力する人

学校は「学びの場」です。中学校の学習は、生徒が1時間1時間の授業の中で、「なぜ」「どうして」

「どうやったら」という疑問をもって、疑問を解決するために、じっくり考えながら、進んで学習することが大切である。そして、授業者は生徒の育成すべき資質や能力に目を向け、ICT 機器を活用した授業実践の工夫や改善を図ることが求められる。授業者の1時間1時間の授業の指導計画をもとに、「分かる授業」を工夫し、学びの質をさらに高め、進んで学習する態度と確かな学力を育成する。

- ① GIGA スクール構想によるタブレット端末の活用を更に進め、学習の個別最適化、（指導の個別化、学習の個性化）と協働的な学習を推進する。
- ② 各教科等における言語活動の推進・充実に努め、習得・活用・探究という学習活動の在り方を研究し、日常の授業改善につなげる。
- ③ 学習の遅れがちな生徒に対して、放課後、定期テスト前、長期休業期間を利用した補習を行い、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ④ 生徒による授業評価を通して、授業力を高め、組織的に授業改善を図ることで、確かな学力の定着を目指す。
- ⑤ 国や市の学力調査の結果を分析し、日常の授業改善に努める。
- ⑥ 小学校との連携を踏まえて個に応じた指導や、ICTを活用しての学習意欲を高める指導の工夫を行い、全教科で体験的な学習や、問題解決的な学習を重視する。また、数学で「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」、英語で「東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドライン」に基づく授業を実施し、基礎・基本の徹底を図るとともに、発展的な学習のニーズにも応える。

◇みんなと協力し、仕事に責任をもつ人

夢は、現実をよりよくしようとする気持ちから生まれる。それは毎日の努力を積み重ねることで、近づいていくものである。将来の夢の実現に向かって、小刻みな努力の一つ一つが結果となって現れたときの生徒の満足感は、自分への自信と勇気となり、次の目標につながる。たとえ困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げる強い意志が、自分の可能性を伸ばし、人生をよりよく生きる原動力となることを日ごろから指導し、生徒一人一人が伸び伸びと自分のよさを発揮できるような指導の工夫に取り組む。

- ① キャリアの形成への取り組みにより、身近な地域を素材とした学習から進め、地域理解から国際理解へと発展させる。
- ② 教育活動全体を通して最後までやり遂げる強い意志を育み、「自立・協働・社会参画」に基づいた生徒一人一人の生きる力を育成する。
- ③ 地域の協力を得て、2年生で2学期に3日間の職場体験、3学期に上級学校授業体験を実施するなど各学年の発達段階を踏まえた職業観・勤労観を養うとともに、キャリアパスポートを活用し将来に「夢」と「希望」を抱かせる指導を工夫する。
- ④ 生徒の発達段階に応じたキャリア教育やオリンピック・パラリンピック教育、食育、がん教育等を通して、他者に学び、自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための力を育てる。

◇豊かな心を持ち、正しい行動のできる人

中学生は、心と体がめざましく成長し、活力にあふれ、どんなことにも積極的に取り組める時期である。しかし、自分のわがままや衝動のままに行動してしまう危うさもある時期であるため、規則正しい生活習慣を築き、自分をコントロールする強さをもって中学校生活を送らせることが大切になる。自分を見つめ、物事を広い視野からとらえ、人間としての生き方について考えを深める教育活動を展

開することで心身ともに健康な人を育成する。

- ① 学級活動等を通して正しい自己理解を促し、自己肯定感の育成に努め、居心地の良い学級づくりを行う。
- ② 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止、早期発見、対応を徹底し、いじめの根絶を目指す。
- ③ 学校生活への適応を促し、安心した集団生活を送れるよう、スクールカウンセラーとの新入生全員面談を実施するとともに、巡回指導員とのアセスメントを毎月行い、結果を指導に活かす。
- ④ 不登校生徒削減のために、登校支援巡回教員、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの協力を得ながら、教育相談活動を進めると共に、適応指導教室等の関係機関との連携も深め適切な支援を行う。特に、登校はできるが教室に入れない生徒に向けて開設した「個別学習室」に登校支援巡回教員を配置し、支援員と連携させ落ち着いた学習環境を整備し、心のケアも行いながら不登校解消を図る。
- ⑤ 校内研修を活用して発達障害等の理解を深め、個々に必要とされる合理的配慮を適切に提供する。併せて、特別支援教育コーディネーターや特別支援委員会を生かし、特別な支援を必要とする生徒への指導の充実と周囲の理解深化や環境整備を図る。
- ⑥ 「特別な教科 道徳」の授業は、内容や指導法を工夫・改善し、「考える道徳」「議論する道徳」の推進を継続する。さらに、校内研修会の充実と実践的資質を向上を図る。
- ⑦ 人間関係作りやいじめ防止対策のために放課後週1コマの面談等を通して、生徒と教師及び生徒相互の良好な関係構築に努め、人権尊重と信頼に基づく学習・生活の場を築く。併せて、基本的な生活習慣の定着を図るために、定期的に学区内小学校と連携した挨拶運動に取り組む。
- ⑧ 問題行動には、その質や程度に応じて適切に指導する。その際、迅速かつ組織的に対応するとともに、必要な情報は保護者に随時伝え、問題状況を共有しながら共に解決を図る。また、関係機関との連携を強め、特に暴力行為や器物破損については社会的にも許される行為ではないことを踏まえて対応する。

(3) 学校の行動指針

『CHALLENGE・挑戦』『CHANGE・変化』『CREATE・創造』

この行動指針は、様々な新しいことに『CHALLENGE・挑戦』し、自らの可能性を信じて『CHANGE・変化』させ、新しいものを『CREATE・創造』行くことを生徒と教師が共に歩んでいくことを願って、この行動指針を掲げた。

(4) 学校経営の基本理念

- 法令等を遵守し、社会の変化に順応しながら組織的・計画的な学校経営を行う。
- 地域運営学校として、地域との絆を大切にし、地域の発展の核になる学校経営を行う。
- PDCA サイクルに立脚した開かれた学校経営を行う。
- 課題解決に挑み、子どもの未来を創造するために、改善を常とする学校経営を行う。
- 義務教育9年間を切れ目なくつなぐ学校経営を行う。

(5) 目指す学校像 「地域と共に生徒を誰一人取り残さない学校」

- あいさつ・対話・歌声が響き合い「誰一人取り残さない」学校
- 全職員が協働し学び合い一人一人の学びを保障する学校
- 自他の違いを認め合い思いやりの言葉があふれる心を育む学校

- 保護者・地域の期待に応え信頼される学校
- 地区の小学校と一貫教育を推進し義務教育9年間を担う学校
- (6) 目指す生徒像 「自ら考え学び合い認め合う生徒」
 - 夢や目標の実現に向けて進んで学び、仲間と共に学び合う生徒
 - 自ら考え、変化の激しい時代を生きぬく力を育む生徒
 - 心身ともに健康で最後まで粘り強く挑戦する生徒
 - 自他の生命を大切にし、思いやりの心をもった生徒
 - 地域を愛し誇りに想い地域社会に貢献できる生徒
- (7) 目指す教師像 「生徒の幸せを願い使命感あふれる教師」
 - 愛情と情熱に満ち生徒の声に耳を傾け共に考える教師
 - 生徒一人一人の学びを保障する授業づくりに努める教師
 - 心身ともに健康で日々の教育実践に最善を尽くす教師
 - 互いに学びあい学び続ける教師
 - 同僚性を構築しあう教師

3 今年度の重点目標と方策

- (1) 確かな学力の育成
- (2) キャリア教育の推進
- (3) 豊かな人間性の育成
- (4) 「協働するチーム四谷中」での教育活動の推進

(1) 確かな学力の育成

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学ぶ態度を身につける。

- 始業、終業の徹底、学習規律の向上を図る。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実施する。
- 生徒一人一人の学習到達状況の把握と改善をする。
- ねらい、振り返り学びの工夫・改善に努める。
- ペア・グループ学習による学び合い授業を展開する。
- 学校図書館の効果的な活用による授業の推進をする。
- 学び方ガイダンスの充実と学習習慣の定着を図る。
- GIGAスクール構想の確立、学習意欲の向上を図る。
- 計画的な補充学習を実施する。
- 英語、漢字検定等への積極的な挑戦を推進する

(2) キャリア教育の推進

10年後、20年後の自らの役割や生き方の実現に向け、望ましい勤労観・職業観他者の見方や価値観を柔軟に受け入れ、協働できる資質・態度、社会参画意識を身につける。

- 学級や委員会、生徒会等の諸活動を通し、自主性を高める教育活動を推進する。
- 職業調べや職場訪問などの活動を通し、将来の生き方について取り組む。

- 地域運営学校としての協働した教育活動を推進する。
- 地域社会と協働した郷土学習や防災教育の充実を図る。
- 職場体験やボランティア活動等を通し、勤労の意義や働く人々の思いを理解する。
- 義務教育9年間を切れ目なくつなぐ系統的・継続的な教育活動に取り組む。

(3) 豊かな人間性の育成

思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識などの豊かな人間性や社会性を育むために、他者との関わりや社会、自然環境の中での様々な体験活動を通して豊かな感性を身につける。

- 人権教育を推進し、自他を尊重し、思いやりのある態度で接し、いじめのない、心の居場所づくりに取り組む。
- 明るく爽やかな挨拶を交わし合う学校環境を整える。
- 考え議論する道徳授業の展開を展開する。
- 自主的・実践的な集団活動を充実させ、達成感や成就感を得させる。
- 特別支援教育を推進する。
- 国際理解教育の推進と共生社会実現への基礎固めをする。
- 学校いじめ対策委員会を中心に、差別やいじめの根絶を図る。
- 一人ひとりに応じた環境作り及び組織的な登校支援を行う。

(4) 「協働するチーム四谷中」での教育活動の推進

① 広報活動の充実を図る。

- すべての文書は「起案」を通し、書類の精度と発信力を高める。また、「起案」の決済をもって業務内容の決定とし、全教職員で決定事項の確実な遂行を図る。
- 各種たよりや学校ホームページ等での情報発信を行い、家庭や地域の理解を得る。

② 環境づくりに取り組む。

- 学年・学級、教科、分掌、委員会の組織力を高め、協働して教育活動に取り組む。
- 奉仕（係）活動の指導を通して、清掃が行き届き、清潔感のある学校を目指す。
- 生徒や保護者のニーズに応えた部活動の開設と活動内容の向上に取り組むとともに、八王子市の部活動改革のガイドラインに準拠した部活動の運営体制を工夫し、構築する。
- 常に危機管理意識を高くもち、個人情報の管理を徹底する。

③ 健康や安全への意識や知識を高める。

- 感染症予防対策を行うとともに、一人一人の生徒の健康状況を把握する。また、事故を未然に防止するための安全管理と安全指導に取り組み、共通理解を通して危機管理意識と事故回避知識を高める。
- 食物アレルギーのある生徒のアレルギー症状（エピペンの使い方を含む）の理解と初期対応の手順を研修し、教職員一人一人が緊急事態に適切に対応できるようにする。
- 特別な配慮が必要な生徒は、校長、副校長、養護教諭、学年主任・担任等の関係職員を含めた連絡会を開き、保護者との面接を通して協力・連携し、個別の対応策を検討して支援する。また、対応策は全教職員に周知し、事故の未然防止に取り組む。

④ 学校事務の機能を充実させる。

- 学校裁量予算、補助金等に対する教職員の理解と協力を得ながら、情報の共有、環境整備、財

務管理等を図り、効率的で効果的な予算執行に努める。

- 事務担当と各学年や各分掌、各委員会、各部活動担当とが円滑な連絡や連携をとりながら、各種会計に関する適正な会計事務を行う。
- 消耗品(特に、紙やインクトナー、コピー等)の節約や節電に努め、裁断機やシュレッダーは安全に使用する。
- 学年会計と連携して、私費会計の管理を徹底する。

⑤ 教職員の姿勢

- 教育公務員として生徒の人格形成に直接関与し、教育活動に当たる教師としての使命と職責を果たすために、服務規律を遵守し、生徒・保護者・地域の期待と信頼に応える。
- 校長の学校経営計画と方策を理解し、具現化するために、これまでと同様に教職員の協働体制のもと、教育計画の編成に基づいた教育実践に取り組む。
- 働き方改革を推進するために、学校の多忙化解消と好循環をもたらす取組を推進し、誇りとやりがいのもてる環境整備に努める。
- 教職員が個々の優れた力を発揮するために、仕事と生活の調和を図りながら、心身の健康第一に職務に専念し、よりよい学校づくりに邁進する。

4 特色ある教育活動

(1) 小中一貫教育の推進

- 9年間で育てたい児童・生徒像を「成就感・達成感を味わえる児童・生徒」とし、小学校、中学校で9年間系統的な指導を推進する。
- 小学校6・5年生を対象として、中学校の部活動体験と中学校の教員による授業体験を行い、小中学生の交流を深め、中一ギャップを解消する。

(2) グローバル人材の育成

- グローバル人材の根幹は、多様性を理解し認めること。世界は異なった価値観をもつ個性豊かな人々から成り立っている。それらを互いに理解し尊重する事が重要であり、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を受け入れる力を身に付ける教育を推進する。
- 外国人と直接交流し、文化や価値観の違いについて身をもって経験できる機会を創り出す。